

がんばる農業者 あの人この人



▲若松 ^{かおる} 郁さん(渡辺町松小屋)

今回ご紹介するのは、渡辺町松小屋で米作を中心とした農業を営む若松郁さん(42)です。

郁さんは、大学で経営情報学を学んだ後、いわき中部農協に就職し、その後、平成16年に退職しました。

約10年間の農協勤務時代は、信用、共済部門など給油所での勤務を除き、ほとんどの部署を経験しました。

農協退職後は、専業農家としての道を歩み始め、現在は13ヘクタールの稲作と10アールの温室でのアスパラ栽培を営んでいます。

家族は、妻とご両親の4人家族です。父親の孝臣さんは、本県の農業分野で最も権威のある県農業賞やいわき市の市農林業賞を受賞するなど現在も米作りのエキスパートとして活躍されています。

郁さんが住む渡辺町は、いわき中部農協管内において、特に米作りの盛んな地域であり、農協に集荷される米の量も全集荷数の約半数が渡辺町地域からの米で占められています。

そうした地域環境のなかにあつて、若松家では耕作面積の規模拡大を進め、家の周囲には、育稲用の大型ハウスが数棟あるほか、作業棟には、大型コンバインを始め各種の機器が何台も揃っています。郁さんは、コシヒカリを中心に栽培していますが、安心安全な米作りにも取り組んでおり、減農薬、減化学肥料の特別栽培米作りも行っています。

郁さんが稲作で心掛けていることは、稲刈り時に効率的に作業できるよう稲を倒伏させないこと。そのために、肥料の散布量などには特に注意を払っています。

そのほかに心掛けていることは、とにかく身体が資本なので、健康には十分注意を払っているそうです。

今後の地域農業の発展のために、また、地域農業のリーダーとしてますます活躍されることを期待いたします。

(執筆 佐川良平委員)

農業者年金 事業研修会

去る10月23日(火)、農業者年金基金企画調整室の千田和徳室長補佐を講師に招き「農業者年金事業研修会」が開催されました。

農業者しか加入できない農業者年金について、その制度内容や加入推進に向けての心構えに関する講義を受けた後、活発な質疑応答が行われました。

※地区の農業委員が農業者年金の説明に伺いました際には、よろしくお願い致します。



▶研修を受ける農業委員

バケツ稲の収穫体験

好間第三小学校

平成24年10月11日、いわき市立好間第三小学校で、5月に田植えをしたバケツ稲の収穫が行われた。

今回、稲の収穫を体験したのは、同校の5年生と6年生の児童10名。

「学区も狭く児童数が少ないので、児童達にはいろいろな体験をさせてあげたい」という教員達の強い思いから、バケツ稲作りを行い、生徒たちの管理も良かったため、黄金色に色づいた稲を収穫することができることになった。

収穫は鎌を使って行われたが、生徒たちは、鎌を持つのも初めてで、おっかなびっくりの様子であったが、楽しくその稲を刈っていた。



10月19日には、お茶碗やすり鉢とすりこぎを使って、脱穀、もみ摺りも行われ、「お米を田植から食べられるようになるまで作ったのは初めてなので楽しい」と初めての収穫に喜びの声が上がっていた。これを期に、農業に対する興味を持ってもらえたらと思う。